

全国長南会通信

51号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX XXX-XXX-XXXX

発行日 平成 27 年 08 月 20 日

長南べに花フェスティバル2015



6月23日(火)紅花まつりの最終日、小雨の降る中、千葉県長生郡長南町へと出かけていった。圏央道が東関東自動車道と繋がり、阿見東インターから成田インターまで約30分、成田から一般道を20分ほど走り、松尾横芝インターから銚子連絡道路に入り、東金ジャンクションを経由し、再度圏央道に入り約40分で茂原長南インターに到着する。(茂原長南インターは圏央道)したがって、我が家から紅花まつり会場の長福寿寺までの所要時間は2時間くらいになった。高速道路が開通する前と比べると1時間の短縮である。

ちなみに阿見東インターは、常磐道つくばジャンクションから約10分のところで、インター入口すぐそばには商業施設「あみプレミアムアウトレット」がある。

今回は長福寿寺のみの訪問になり、長南町を後にしてからは、茂原市内から白子海岸に向かって30分ほど走り、現地の友人宅を訪問した。長生郡白子町は、室内テニスコートが多数あるところで、テニスの大会がよく開かれるそうだ。また、長生郡(ちょうせいぐん)は読み替えると「ながいきぐん」とも読めるので、大変縁起のいい地名でもある。長生郡長生村というところもありここは「ながいきぐんながいきむら」だ。

東京方面からのアクセスも良くなっているので、来年は是非足を運んで下さい。この時期は、アジサイや菖蒲なども見ごろなので、長福寿寺からの花めぐりのコースを十分に楽める。

長福寿寺 (本尊阿弥陀如来)



789年に桓武天皇の勅願により伝教大師最澄が、長南町の中の台（現在の小沢）に創建し、1247年の宝治合戦の結果長南常忠が斥南城に入るに当り、その跡地の三途台に移った。1353年義憲が再興し、鎌倉から室町時代にかけて長南氏の援助によって隆盛を極めた。関東における学問所として、房総内外の寺院子弟の教育に当り、中世においては西に比叡山、東に三途台（当時は東叡山と称した）ありと言われ関東天台の要をなし、房総三国における大本山として末寺308ヶ寺を有し大古刹とされた。京都の梨本（大

原三千院）、毘沙門堂両門主も当山の住職となり、その縁で「三途河頭極楽東門蓮華台上阿弥陀坊太平埜山本実世成院長福寿寺」という日本一長い勅号を賜っている。1490年寄進者長南次郎と記された胎内墨書銘がある。

1572年織田信長に焼かれた比叡山は、この寺が寄贈した材木で再建された。徳川時代には将軍から寺領50石が寄進され、明治時代になると、諸堂保存費が下賜された。

長南町ガイドブック（中村就一）より



長福寿寺の見学ポイント

1. ちょうなんどん 長南殿（写真左）
本堂に向かい左手
2. スモークツリー
長南殿の手前（写真右）
3. 吉ゾウくん
本堂前の1対の御影石の象（写真上）



会費納入ありがとうございました。

長南 一男	北海道	3,000	長南 賢一	山形県	10,000	長南 隆	千葉県	3,000
長南 一男	北海道	2,000	長南 勝幸	福島県	2,000	森川 剛典	千葉県	2,000
長南 昇	北海道	2,000	長南 豊	福島県	4,000	田村 かなさん	千葉県	2,000
長南 正道	北海道	2,000	長南 仁	福島県	5,000	長南 弘美	東京都	4,000
長南 サカエ	宮城県	2,000	長南 幸雄	茨城県	4,000	長南 章彦	東京都	2,000
長南 勤一	宮城県	4,000	長南 忠行	茨城県	2,000	長南 義美	東京都	2,000
長南 政直	宮城県	10,000	長南 秀則	茨城県	10,000	斎藤 武夫	東京都	20,000
長南 亀悦	宮城県	3,000	長南 照光	茨城県	12,000	長南 充浩	東京都	2,000
長南 和夫	宮城県	3,000	長南 国男	茨城県	2,000	小野 巖	東京都	10,000
長南 征二	宮城県	2,000	長南 信雄	茨城県	5,000	長南 清	東京都	10,000
長南 良彦	宮城県	2,000	長南 新一	埼玉県	4,000	長南 恒弘	神奈川県	2,000
長南 竹雄	宮城県	2,000	長南 貴士	埼玉県	2,000	長南 誠悦	神奈川県	2,000
長南 俊蔵	山形県	2,000	芦原 貴美大	埼玉県	4,000	長南 一夫	神奈川県	2,000
長南 孝一	山形県	3,000	長南 俊春	埼玉県	22,000	長南 光郎	神奈川県	2,000
長南 正	山形県	3,000	長南 勇	埼玉県	2,000	西海 清	神奈川県	3,000
長南 利幸	山形県	5,000	長南 邦年	埼玉県	4,000	長南 守	静岡県	2,000
長南 成	山形県	5,000	長南 亘	埼玉県	2,000	白井 ヒサエ	愛知県	2,000
長南 吉美	山形県	2,000	長南 仁志	埼玉県	10,000	長南 喜善	京都府	2,000
長南 源一	山形県	2,000	近藤 忠行	千葉県	2,000	不詳 (※)	宮城県	2,000
長南 恵三	山形県	10,000	長南 誠一	千葉県	2,000			

2015/07/06 現在 59人 255,000円

会計報告

2015/01/01~2015/07/31

	入金	出金
前年度残高	565,580	
会費	255,000	
利息	62	
郵便振替手数料		4,902
和泉守墓管理費		20,000
べに花まつり協賛		20,000
通信50号発行代		12,569
事務用品費		14,249
長南町取材費		9,424
弔電(2件)		3,077
郵便代他通信費		3,798
合計	820,642	88,019
次期繰越金		732,623

内訳	
現金	100,461
普通預金	625,454
当座預金	6,708
合計	732,623

(※) 塩釜市玉川局から会費納入された方、お名前不明でご紹介できませんでした。後ほどご連絡ください。

残暑御見舞申し上げます。

まだまだ暑い日が続きますが、お体に気をつけてお過ごしください。



2015年8月10日
長南秀則 (青宿)

ほんろう

翻弄された超能力者

ちょうなんとしえ
長南年恵

黒木あるじ（作家）

山形自動車道鶴岡インターチェンジ（IC）を下りて市街地へ向かうことおよそ5分。国道7号からわずかに逸れた先に、南岳寺という寺院がある。鉄竜海上人の即身仏が安置されていることで知られた名刹だが、その境内に建つ小さなお堂に目を留める者はあまりいない。堂の内陣には「淡島大明神」の筆書きやあまたの仏像などと共に、ひとりの女性を撮影した写真と肖像画が飾られている。被写体である女性の名は長南年恵。彼女こそ、何もない空間から物体を導き出す力、いわゆる超能力を持った「生き神」として明治の山形を騒がせ、ついには裁判にまでかけられた人物なのだ。

さて、この数奇なる運命をたどった超能力者の生い立ちを語る前に「あらかじめ申しあげておきたい。本稿は、長南年恵の超能力が本物か否かを追及するものではない。証拠をあげつらうそだペテンだインチキだと騒いで死者にむち打ったところで、そんな行為に意味などはない。私はむしろ「なぜ、長南年恵は超能力者として祭りあげられ、裁判にまでかけられたのか」を問い、その背景となった時代や文化を突き止めたいと考えているのである。

1872（明治5）年、明治政府が公布した学制により、日本国民は等しく教育を受ける権利を得た。それに伴い年恵の暮らしていた鶴岡市にもこの時期、小学校が次々と開校されている。しかし幼い年恵は小学校に入学することなく、市内の山王町へと子守奉公に出されてしまう。長男以外の子供は奉公に出て働くのが普通の時代である。学制が公布されたといっても、現実とは大きな隔たりがあったのだろう。しかし、皮肉にも奉公へ出たことによって年恵の人生は、普通とはかけ離れた方向へと導かれていく。

奉公に出て間もなく、年恵はしばし



ば予言めいた言葉を口にするようになった。その予言はことごとく的中し、奉公先には評判を聞きつけた相談者がひっきりなしに訪れたという。やがて周囲から「本格的に巫女として開業してはどうか」と促された年恵は、鶴岡市陽光町にある橋のたもとで行屋を開いた。行屋の「行」とは行者、すなわち修行によって靈験を得た者を指す。年恵はどうやら行屋を開く以前、御嶽山を信仰している行者から巫術を習ったようだ（それを裏付けるように、鶴岡市の般若寺にある彼女の墓には、山岳信仰を主体とする御嶽教の位である「大講義」の文字が彫られている）。

かいり 政府との乖離

当時は、病気の際に医者ではなく行者や巫女をたよることが珍しくなかった。加えて庄内地方は出羽三山信仰の影響が色濃く

残っており、明治を迎えてもなお、加持祈禱が盛んだったのである。しかし西洋近代化を理想とする新政府はそのような行為を固く禁じていた。73年には「迷信や占い、狐憑きなどの近代化を妨げるものは嚴重に取り締まるべし」という指令が、神道、仏教の教義などを管理していた中央官庁組織の教部省から出されている。学制の公布同様に、ここで政府の理想と庶民の現実乖離していたわけだ。

そんな時代の移り変わりをよそに、年恵の行屋はたいそうな繁盛ぶりであったようだ。食べ物を口にせず排せつもほとんどおこなわないという神がかった性質も手伝って、その評判は日ごとに高まっていった。なかでも有名だったのは「霊水引き寄せ霊媒」。嚴重に封をした空の瓶へ水を満たすのである。この水はあらゆる病に効くとされ、ついには霊水を求めて行屋はもちろん年恵の実家にまで人が押し寄せるようになったという。

しかし、迷信や祈禱の類を禁止していた政府がこの人気を見過ごすはずもない。



長南年恵霊廟にて 鶴岡市南岳寺 (2006/11)

95年7月、年恵は「医師の資格なしに治療をおこなった」という詐欺の疑惑でおよそ2カ月の間、そして翌96年の10月には1週間あまり、山形県監獄鶴岡支署に逮捕、拘置されてしまったのである。

大阪で商売を営んでいた実弟の雄吉は姉逮捕の知らせを受けて鶴岡へ舞い戻り、鶴岡支署に証明願を提出した。「年恵の超能力が本当であることを認めろ」と迫っ

たのだ。当然ながらこの届け出は却下され、それを受けた雄吉は、年恵を自身の暮らす大阪へと転居させてしまう。たび重なる逮捕拘留に憤ったのがその理由とされているが、雄吉にはもうひとつのたくらみがあった。京都大に姉を被験者として提供し、その能力を科学的に証明してもらおうと考えたのである。

御霊水裁判

迷信打破の急先鋒であった哲学者井上円了と連絡を取り合っていたという事実からも、雄吉の本気の度合いがうかがえる。だが、残念ながらこの試みは実現しなかった。

「生き神が来る」と聞きつけた人々が連日大挙して押しかけ年恵は表へ出ることもままならなくなってしまったからだ。困った雄吉は、なんとかして年恵の存在を研究者に知ってもらおうと、大阪朝日新聞の知人記者に「霊水引き寄せ霊媒」の現場を取材してもらった。しかしこの苦肉の策は鶴岡にいた時と同じ悲劇を招いてしまう。記事が掲載されてから数日後、年恵はまたも詐欺の容疑で拘置されてしまったのだ。

間もなく年恵は拘置を不服として上告（本人ではなく雄吉が手続きをおこなったと思われる）神戸地方裁判所で再審理が行われた。これこそ後に「御霊水裁判」と謳われ、超能力者・長南年恵の名を後世にまで知らしめることになった裁判なのである。1900（明治33）年12月14日付の大阪毎日新聞の記事によれば、裁判そのものは「詐欺の証拠が不十分である」として早々に無罪判決が下っている。問題はその後だった。判決を受けて、弁護士詰め所に集まっていた弁護士と記者たちが年恵を囲み、「ここで雲水を出してみでくれ」と頼んだのである。年恵は快諾し詰め所の電話室へ空の小瓶を持って入ると（なお、事前に電話室内はちりひとつない状態まで片づけられている）5分ほ

どたってから再び弁護士らの前に姿を現した。小瓶の中には黄褐色の液体が満たされており、その場にいた一同を仰天させたという。

この1件により、長南年恵の能力は広く世に知られるところとなった。もっとも本人はそのような騒ぎにはとほと嫌気がさしたようで、翌年には郷里へと帰ってしまう。そして鶴岡で巫術をおこないながら、7年後の1907年に44歳の若さで没するのである。

なんとも破天荒な年恵の生涯を追うなかで私はふと「彼女の人生は“明治という時代”に翻弄されていたのではないか」という考えに至った。文明開化の名のもとにそれまでの価値観が排除され、近代以前の文化が駆逐されていく時代。その急

激な変化を恐れた人々は「近代の理屈では説明できない存在」を信じて年恵にすぎり、いっぽうで変化を歓迎した人々は「近代の象徴たる科学の力」を信じて、年恵を表舞台に引きずりだそうとする。

誰もが戸惑い、答えを求め焦っていた。その混乱を年恵は小さな身体で受け止めていたように見える。だとすれば、彼女こそが「明治の山形とは何であったのか」の問いであり、答えのひとつであるように、私は思えてならないのだ。

山形新聞 2015/04/26
やまがた再発見より

長南年恵（ちょうなん・としえ＝通称おさなみ・としえ）“1863（文久3）年、現在の鶴岡市に、庄内藩士長南寛信の娘として生まれる。本名は登志恵。庄内地方では、「長南」は一般的に「ちょうなん」と読むが、後年大阪に暮らす実弟のもとへ身を寄せた際、関西の読み方にあわせて「おさなみ」と読ませ、現在もふたとおりの呼び方が残っている。幼少のころから不思議な才能を持っており、予言をするようになったのち、巫女として開業している。成人とは思えない容姿と、天真らんまんな性格から「極楽娘」「年恵観音」の名で親しまれ、多くの信仰者に指示された。実弟の長南雄吉に連れられて大阪へ赴くも数年後に鶴岡へ戻り、44歳の若さで亡くなっている。死後、信者によって鶴岡市南岳寺に霊堂が建立された。雄吉は後年、心霊研究家の浅野和三郎に年恵の回想を口伝え、浅野はそれらをまとめて1930（昭和5）年「長南年恵物語」という作品を書いている。

鶴岡市の長南^{しげる}成さんから新聞記事が送られて来た。長南年恵については、鶴岡市での勉強会や、般若寺での長南年恵100年祭などに参加し、貴重な経験をさせていただいたが、今も、各方面での分析や研究が行われているようだ。以前に、みのもんたのTV番組でインドの不食の人物（水だけを摂取しながら長年生存している男性）とともに、再現ドラマで裁判の様子などが紹介され、この番組に、成さんをはじめ、柏市の中村就一さんも出演して、長南会の活動の一端を紹介している。この新聞記事は、急激な時代の変化のなかで、庶民がよりどころを探している明治時代に翻弄された長南年恵を伝えている。



長南成さん 鶴岡市



(上) 2006年11月、長南年恵100年祭での集合写真(鶴岡市般若寺)

(右) 香風会の尺八演奏 手向の曲



(下) 年恵の墓への顕花



(右) 大講義長南年恵刀自(年恵の墓)





うすさまみょうおう 烏枢沙摩明王

「トイレを磨く、きれいにすると、その磨いた人に良いことがある。臨時収入などが入ってきた」という実例報告があります。

トイレの神様をインドより伝わる仏教では烏枢沙摩明王（語源はウッチュシュマ）と言い。トイレの神様・清めの神様・出産の神様・お金の神様と言われており、風水や古神道でも似たようなことが言われています。

臨時収入があるかもしれないというようなワクワク楽しい気持ちでトイレをきれいにするとこの神様も微笑んでくれるのだと思います。磨くときに『オン・クロダノウ・ウンジャク・ソワカ 烏枢沙摩明王さまいつもありがとうございます。』と言うと良いようです。

仏絵士 齋藤サトル

（長福寿寺境内トイレ内にあった格言より）

はいちゅうの だえい 杯中の蛇影

いつも来る親しい友人があつたが、ながいこと訪ねてこない。ふしぎに思つてその理由をたずねてみた。すると、

「このまえ、うかがつて酒をいただいていたときでした。

飲もうとすると、杯の中に蛇が見えるではありませんか。気色がわるいけれど飲みましたが、それから具合が悪いのです。」 おかしいことだ、と考えた。このまえ飲んだのは？ 役所の一室だ。あそこの壁には弓がかかっていたな？ そうだ、弓には漆で蛇の絵がかいてあつた。またその人を招いて、まえの所で酒をくみかわした。杯に酒をついで、客にたずねた。

「杯のなかに、また見えますか？」

「ああ、このまえとおなじに！」

「その蛇は、あの弓の絵の影ですよ。」

客ははっと悟り、病はたちまち治つたという

疑いをもてば、なんでもないことも神経をなやますということに、この語はつかわれるようになった。

「杯中の蛇影呑み」といえば、気にやむほどのことはありませんよ、ということになる。「疑心暗鬼を生ず」とか、「幽霊の正体見たり枯尾花」と響きあふことばである。



（長福寿寺本堂にあった格言を引用）

長福寿寺 今井長秀住職と